

## 第 66 回 東京医療センター地域医療カンファレンス

開催場所：国立病院機構東京医療センター 病棟会議室

開催日時：平成 23 年 6 月 16 日(木) 19 時 30 分～

テ ー マ：ヘリコバクター・ピロリの除菌診療

担 当：国立病院機構東京医療センター 消化器科 西澤 俊宏

ヘリコバクター・ピロリが、ノーベル賞を受賞した Warren と Marshall によって発見されてから 30 年近くが経過しました。幼少期に感染して知らないうちにピロリ胃炎となり、それが長い年月をかけて萎縮性胃炎となります。さらに進行していく過程の中で胃潰瘍や胃がんが発生します。ピロリ菌の除菌で胃がんの発生が抑制されることは、早期胃癌内視鏡治療後に除菌群で発癌率が 1/3 に低下したという Fukase らの最近の臨床試験で明らかとなりました。さらに日本ヘリコバクター学会ガイドライン 2009 年改訂版では、ピロリ菌感染患者全員に対して除菌治療を行うことを推奨しています。目黒区の ABC 検診でもピロリ抗体が測定されており、ピロリ陽性の方は胃がん予防のためにも可能な限り除菌治療を施行することが望まれます。しかしながら、医療保険の縛りが厳しく慢性胃炎のみでは保険を利用して除菌治療が行えないため、当院における自費除菌外来についてご紹介いたします。除菌治療については、クラリスロマイシンを用いた一次除菌、メロニダゾールを用いた二次除菌まではコンセンサスが確立し保険適用となっています。二次除菌までいっても除菌に失敗する例が約 3% 存在しますが、三次除菌のレジメンについては明確な結論が得られていません。除菌希望者が増える中、保険適用を超えることになっても救済療法としての三次除菌を備えておくことは重要と考えられます。当院では高用量プロトンポンプ阻害剤・アモキシシリン療法やキノロン系のシタフロキサシンを用いたレジメンを臨床試験として施行しており、概要を紹介させていただきます。

担当医略歴：

平成 12 年 3 月 慶應義塾大学医学部卒業

平成 12 年 4 月 慶應義塾大学病院内科研修医

平成 14 年 5 月 日野市立病院内科

平成 15 年 5 月 けいゆう病院内科

平成 16 年 5 月 慶應義塾大学病院消化器内科

平成 20 年 4 月 国立病院機構東京医療センター消化器科医員

学 会：

日本内科学会(総合内科専門医)、日本消化器病学会(専門医)、日本消化器内視鏡学会(専門医)、日本肝臓学会(専門医)、がん治療認定医、日本ヘリコバクター学会(ピロリ感染症認定医)

\*このカンファレンスは日本医師会生涯教育講座の認定単位2単位を取得できます。